

はぐハグ

みんな、きっと気になっているはず。地球の未来のこと。温暖化がもっと進んだら、どうなっちゃうの？ 何だか怖いよね。「環境を守るためにも、食べ物の『もったいない』を無くそう」。そんな取り組みが広島市内で始まりました。「あいあいねっと フードバンク広島」といいます。いったい、どんな仕組みなんだろう。その仕掛け人で、管理栄養士の原田佳子さんに教えてもらいました。
(木ノ元陽子)

「もったいない、無くし環境守ろう」

作りすぎた
袋に傷

余った食品 施設や地域に

「日本では信じられないくらい、たくさん食べ物が捨てられているんですよ」と原田さん。農林水産省の2006年度の統計によると、1年間の食品廃棄物は



青果物卸業者（おろしぎょうしゃ）から提供してもらった、規格外の野菜。施設に分ける手順をスタッフと確認する原田さん

あいあいねっとフードバンク広島

約1135万ト。外食産業を除いても831万トにのぼります。これは、日本の1年間の米の生産量と同じくらいなんですって。

なぜ、こんなことが？ 「たとえばね、包みに傷があったら『商品』としてお店に出せないと判断されてしまう。また、たくさん作りすぎて商品が余ったら保管する場所に困りますね。そんな時、いっそ捨ててしまおうってことになるんです」

栄養もあって、品質に問題なくても捨てられてしまう食べ物。ああ、もったいない！ でも、この問題と地球温暖化とは、どんな関係があるの？

原田さんは、こう説明してくれました。「原材料をつくる、加工する、運ぶ。食べ物ができあがるそれぞれの工程で、二酸化炭素（CO₂）が排出されています。なのに、それを焼却処分すれば、さらにCO₂が…。たいへんな悪循環です」。どうすれば、食い止められるんだろう。

そこで原田さんたちは注目したのです。「フードバンク」に。仕組みは、こうです。食品メーカーや小売りのお店な

どで、食べられるのに余った食品をバンクに寄付してもらいます。バンクは食べ物を福祉施設に提供したり、お年寄りに食事を配達するサービスに使ったり。捨てられる運命にあった食べ物が、「助け合い、支え合い」の輪を築くのです。画期的なシステムでしょう？

フードバンクを動かしていくために、今年2月、特定非営利活動法人（NPO法人）「あいあいねっと」を設立。原田さんは理事長を務めます。広島市安佐北区可部に事務所を設けました。食べ物の受け渡し機能を担うだけではなく、いろいろな人が集う地域のふれあいの場にしたい。そう考えます。

最後に、原田さんから子どもたちへ。「食べ物の値段が高くなってきている今こそ、みんなの意識を変えるチャンス。食料は大切な資源であり命の源なんです。決して粗末にせず、余分な物は買わないで。地球に暮らす一人一人が、気をつけていきたいですね」

「あいあいねっと」の事務所 ☎082(819)3023。

焼却減りCO₂排出防ぐ

メーカーや小売店商品寄付

フードバンク広島のしくみ

親子で読むページ

「商品にならなから」とまったく問題がなかに捨てられてしまう食品 例えは・・・



フードバンク事業

福祉施設などへの食材提供



地域を元気にする活動

- ・お年寄りに食事を配達するサービス
- ・食育教室など、環境を考える学習

イラスト・おのゆきこ

<http://blog.chugoku-np.co.jp/fureal18/>